

ビジョンボード（成果物）



1. つどう

- ・アクセシビリティの講義を受けて、実際にプログラムを体験してみる。
- ・昔に練習した楽器をもう一度おにクルでしてみる。
- ・おにクルのHPでイベント情報を確認して参加する。
- ・12/4～21福祉文化会館ICAW参加する。
- ・古典を大切に作る場、社会に合わせてアップデートしている場両方に行く。
- ・11/16 COFFEE MEETSでお気に入りのコーヒーを見つける。
そのお店に後日行く。

2. つながる

- ・美術館のない街でもリアルなアートをみられるようネットワークづくりをしたい。
- ・ギャラリーをまわって作家さんたちのお話を聴きたい。
- ・絵本原画展をひらきたいです。日本画のすばらしさを伝えたい。
- ・おにクルと茨木の歴史観光地コラボ。
- ・瀧本さんが運営している「手伎コーヒー」を飲む。
- ・生ごみで作ったたい肥を利用して野菜を作り、みんなで料理を作りシェアする。
- ・アーティストと一緒に服作りをし、そのギャラリーを色々な人の居場所にする。
- ・ICAWに参加して来場、鑑賞された方の感想を伺ってみる。
- ・イベントに参加したら「なぜこの活動をしているのか？」聞いてみる。
- ・茨木市民活動センターに登録されている伝統芸能に関わる団体とコラボして茨木市と関係するテーマで演奏会をしたい。

ビジョンボード（成果物）



3. つたえる

- ・アートに興味があるか分からない人に押しつけにならないよう気を付けつつ紹介してみる。
- ・ゴミの分別の大切さをわかってもらうため、子どもが楽しめるワークショップをする。
- ・茨木市内で生ごみ分別収集、処理場を作ることを目指しておにクルなどの集まりに参加し、同じ考えの人とつどい、意見交換をする。
- ・コーディネーターとして活動するために、市が認定した市民アートコーディネーターであることを示すための名刺が必要、立場を明確にする。
- ・about me 9のキュレーションを見学して、アートに興味ある人に伝えてみる。
- ・2026年中に自らイベントを企画して市民活動センターでやる。もともと茨木にあった食文化の掘り起こしなど。
- ・昨年度おにクルで募集したプロジェクト「とりすき」について伝える。
- ・”隗より始めよ”茨木市職員の意識改革が必要。



(ビジョンボード)

全体発表



1. 個人作業（発表内容のまとめ）

以下の質問をベースに、今後の活動継続に向けて、今年度の活動の中での気づきを整理して発表。（1人2～3分程度）

- ①最初に感じていた「どんな市民ACになりたいか」という問いからどう変化したか、活動の中で感じたこと。
- ②今年度身についたスキル。
- ③もっと身につけたいスキル。

2. 全体発表

- ①「居心地の良い場」をつくるのが起点だったが、多文化共生と福祉の視察や講義、noteの執筆を通して「誰にとって」居心地が良いか、を意識するようになった。関係者の思いをつなげることを大切にしたいと思っていることを文章にすることは難しいと感じた。
- ②心地よい関係性を意識する、相手を尊重しながら意見を交換する。
- ③伝えたいメッセージを整理する。
- ①環境の視察で、アートを通じてどのように問題を解決できるか、グループ内の話し合いを行った。自分では思いつかないようなアイデアが出てきて、自分だけの発想では足りないということを実感した。
- ②幅広く情報収集をする。
- ③効果的な発信方法を意識する。
- ①茨木市が安心安全な心地良い街であってほしい。心地よいと感じるのは人それぞれであるということを知り、今まで触れたことのない意見を聞くことができ視野が広がった。
- ②価値観や過程を理解、共感する。
- ③幅広く情報収集をする、好奇心をもって聞き出す。
- ①「こうなりたい」という明確なものが思いついていないまま参加した。講義や活動している参加者の話を聞く中で、自分の中の問題意識や課題が大事ということがわかった。自分の思いと周囲の思い両方大事にしたい。スタッフから「ここに来てくれるだけで十分だよ」という言葉で安心して参加することが出来た。
- ②継続して関わる。
- ③情報を整理して共有する。



- ①環境の視察で、アートを通じてどのように問題を解決できるか、グループ内の話し合いを行った。自分では思いつかないようなアイデアが出てきて、一人だけの発想では足りないということを実感した。
- ②幅広く情報収集をする。
- ③効果的な発信方法を意識する。
- ①コロナをきっかけに、地元で楽しめる何かを探し始めた。美術史の市民講座を受けて、「自分たちで面白くする」という意識に変わり、地元の企画に、黒子で関わりたいと思うようになった。
- ②この会議を通して、現代美術のお手伝いも行い参加者同士のつながりも強くなった。自分で耕していきたいと思えた。
- ③人の話を聞くのは好きだが、発信するのは難しいと感じた。発信に関して学べる講座などを次年度開催してほしい。
- ①オンリーワンのコーディネーターになりたいという気持ちに加え、オンリーワンのプロデューサーにもなりたい。この会議や体制に関わり優秀な市民や市職員で相乗効果を生み出せる状況をつくりたい。
- ①人と人、人と場をつなげることに興味があり参加。茨木市にある文化、産業、歴史など様々なことに興味を持つ必要がある。幅広く情報を収集し、自分が面白く感じる事が出来ると、つながりが生まれ、つたえたい気持ちも高まっていく。
- ①文化行政に関わりたいという思いでこの会議に参加。伝統芸能を後世にもつなげていくことをやりたい。一過性のイベントではなく、お弟子さんをつないだり、主催者をつないだりして継続性のある「つながり」に意識して活動を行っていきたい。



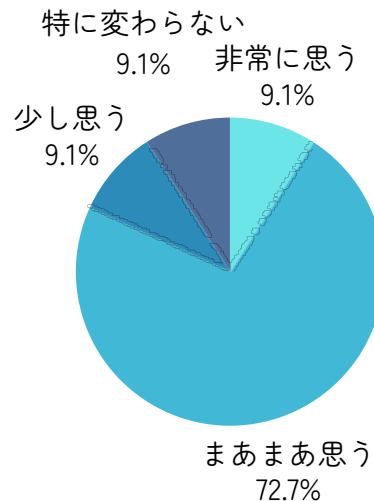
(当日の様子) SPS

アンケート（11名）



1. 全6回の活動を通して、市民アートコーディネーターとしての役割等について、理解が深まりましたか？

- 非常に思う...1名
- まあまあ思う...8名
- 少し思う...1名
- 特に変わらない...1名



2. 上記回答の理由・エピソード等（自由回答・一部抜粋）

- ・ 色々な文化的要素をお持ちの方が集まって会議を開催して頂いたので大変参考になりました。
- ・ 講師の方やいろいろな人の話を聞くことができ、普段どのような活動されているのか話をすることができた。市民アートコーディネーターがどのような役割をするのか少し理解できた気がする。
- ・ 多くの貴重な実例や主催者に触れることができた。
- ・ 自分がまず『知る』ことが大切だと思いました。初めは、地域を魅力的にする為に、自分が『やってみたい事』ばかりを模索しておりましたが、どんな分野でも、地域で出会った人や活動に対して、知る、学ぶ姿勢で、その人達の想いに触れることがまずは大切だと思いました。第5回のホスピタルアートの講義で改めて感じました。
- ・ 「つどう」、「つながる」、「つたえる」、市民目線で「つなげる」、「つくりだす」のキーワードは繰り返し出てきたので、記憶に刻まれました。
- ・ 求めている人材像は伝わってきたが、実際に自分たちに何ができるのかまでイメージできなかった。

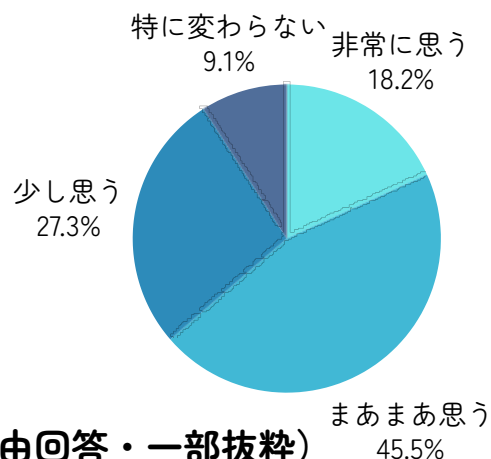
アンケート (11名)



今年度の活動参加前と後で、アートやアートを通じた活動について、

3. 心境や行動の変化はありましたか？

- 非常に思う...2名
- まあまあ思う...5名
- 少し思う...3名
- 特に変わらない...1名



4. 上記回答の理由・エピソード等 (自由回答・一部抜粋)

- ・市/行政として文化振興に力を入れておられる事がよく理解できた。
- ・5回目に感じたことは人が生きていくためには最低限、衣食住が必要でありアートに関して心や体、金銭的な余裕がなければ触れることは難しいことだと思っていた。今回、お話を聞いてアートは衣食住にくっつく大事なものであることに気づいた。
- ・新しい知識や考え方に触れられた。
- ・文化の会議以前から「つながり」は有りましたが、市内の美術展やワークショップに足を運ぶことが増え、仕事やボランティアとして関わるようになりました。
- ・アートに関心がある熱意ある方と知り合えたのは嬉しい。

全6回の活動を通して、ご自身で「トライできた」と感じることは、いくつありましたか？ (文化の会議で学んだことをプライベートの活動で

5. 活かすことができた等) 回答例：●回

4回...1名 / 3回...2名 / 2回...2名 / 1回...1名 / 0回...1名 / 無回答...4名

6. 上記回答の理由・エピソード等 (自由回答・一部抜粋)

- ・ライフラインの受付、maruを他市の方に紹介、他市の方にハブアートの紹介ができました。
- ・まだまだ、トライできたと言えるまでには至っていないような気がします。

アンケート (11名)



- ・温度差はあるにせよ、この会議に関心を持つ方々と話をすることができたことは、次へのステップへの可能性を秘めていると感じた。
- ・環境のことを考えているメンバーと繋がることができた。
- ・幅広い年齢の方と話して理解することができた。
- ・いろいろな人、団体と繋がることができた。
- ・自分の興味ある芸術を楽しむだけでなく、「社会課題」と「アート」について意識するようになりました。

講義の内容で印象に残ったキーワード、感じたことをご記入ください。

(講師 第1回：藤野一夫教授、第2回：One Art Projectさん、

7. 第5回：室野愛子さん) (自由回答・一部抜粋)

- ・室野さんのお話は非常に今回聞いていて印象に残った。病院の中にアートを書くということに対して有料で行うこと、アートが必要なのかと思われる中で活動を進められているのはすごいと感じた。
- ・「アート」私にとってまだまだ抽象的なキーワードではありますが、少なくともそれに関わり、結果を出している人たちがいて、その実例を見ることができた。第1回文化的コモンズの形成について、今の時代に合った地域での助け合いが必要である事を知った。第2回、現代アートへの理解を求めるのではなく、地域の為に出来る事を模索されている事を知った。第5回、ホスピタルアートについて知り、感動したが、病院の中の人の心理的なサポートだけでなく、周りで暮らす人のつながり、調和を願っての取り組みは、まさにアートコーディネーターだと感じた。
- ・文化的コモンズ、文化芸術に軸を置き役割をぶらさない、みんなの思い自分たちのストーリーを形にすることがホスピタルアート、アーティストが正当な対価を得られるように(アートの価値から逃げない)、自分で自分を信頼して共感力を磨くことが大切。
- ・藤野先生の講義をきいて、自身の活動方針が間違っていないことを確信した。

アンケート (11名)



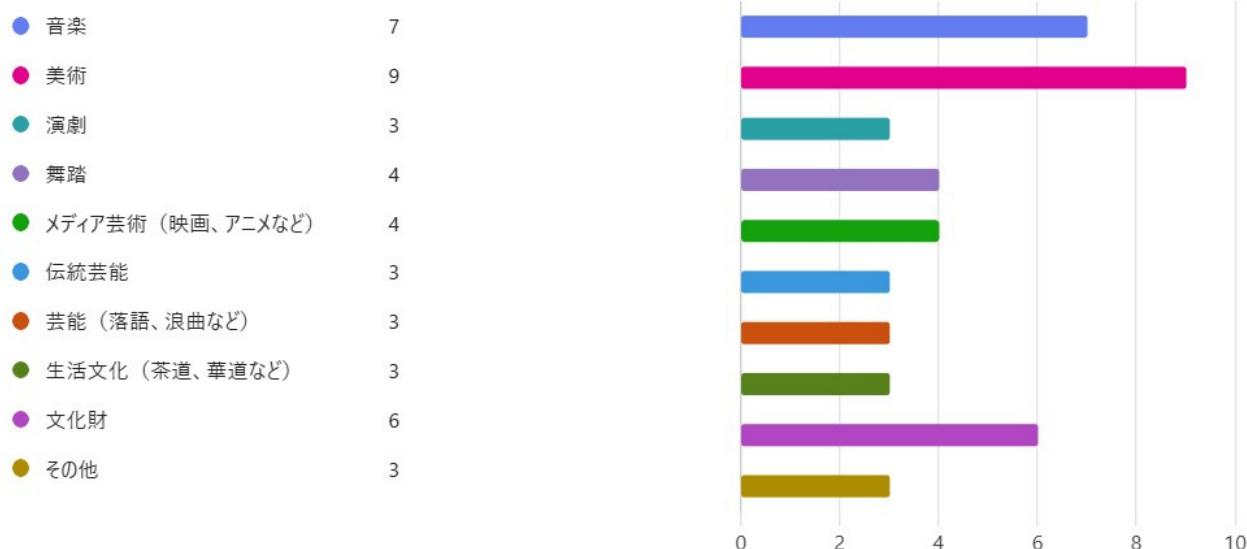
視察先の方のお言葉やエピソードで印象に残ったキーワード、感じた

8. ことをご記入ください。(自由回答・一部抜粋)

- ・「アート」というのは成果物そのものではなく、その発端であったり、それを取り巻く環境であったりに意識を向けることに意味がある、と思った。
- ・茨木モスクのイマーム(導師)の「隣人との絆を大切に」という言葉と、モスクにつどうムスリムの方々が積極的に豊川地区の行事に参加し、それを実践されていること。
- ・アーティスト1人1人を大切にすること。
- ・茨木市のごみ処理に関して今使用している処理施設は15年しか持たないということをおっしゃっていたこと。15年たてば同じような処理施設を作るのか、分別をするのか選択を迫られてしまう。

次年度以降取り上げて欲しい、またはご興味のある文化芸術分野を選

9. 択してください。(複数選択可)



その他...文学、誰もがアートとして参加できる取り組み・企画、現代アート

アンケート（11名）

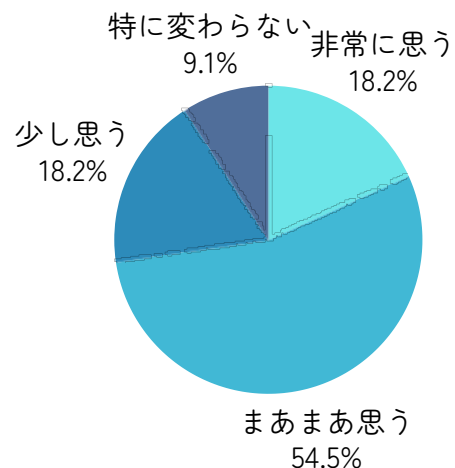


10. 市民アートコーディネーターとして今後取り組んでみたいことがあれば、ご記入ください。（自由回答・一部抜粋）

- ・対話型鑑賞会、読書会。
- ・キュレーションの見学。
- ・アートを介して生ゴミの分別問題を考えたり、JR茨木駅の再開発にアートの視点を入れて考えいけるようにしたい。
- ・伝統芸能を継承している団体同士のコラボ。
- ・メディア芸術と音楽で何かできれば面白いのかなと思った。若い世代は注目度が高いと思う。
- ・アートを通じて誰もが参加できる取り組みの模索・企画。
- ・現代の日本画家による絵本原画展や展覧会。アーティストによるワークショップ。
- ・人材育成。

11. 地域社会に貢献したいという気持ちは高まりましたか？

- 非常に思う...2名
- まあまあ思う...6名
- 少し思う...2名
- 特に変わらない...1名

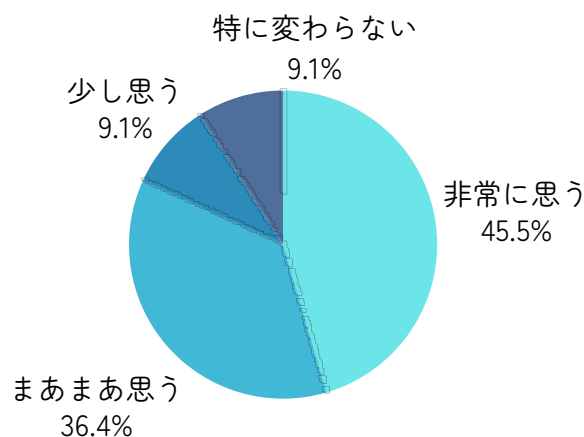


アンケート（11名）



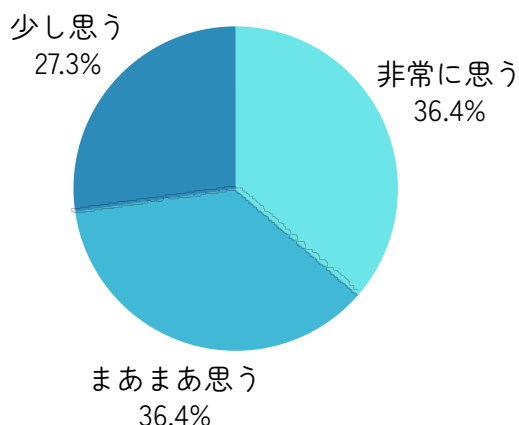
12. 文化芸術活動に対して、以前より「関わりたい」と思う気持ちが高まりましたか？

- 非常に思う...5名
- まあまあ思う...4名
- 少し思う...1名
- 特に変わらない...1名



13. 今回の活動を通して、新しい出会いやつながりを感じましたか？

- 非常に思う...4名
- まあまあ思う...4名
- 少し思う...3名
- 特に変わらない...0名



14. 新しいことへの好奇心や、アイデアを得ることができましたか？

- 非常に思う...4名
- まあまあ思う...6名
- 少し思う...1名
- 特に変わらない...0名

